

e-learning による英語教育の全学的な展開

取組みと評価指標・目標

オンラインを併用した授業を推進することで、発音、抑揚、発話の流暢さ等の自宅でのチェック、授業の録画・保存による反復学修および欠席者への対応など、地理的・時間的制約を超越するオンライン学修の機会増加により、授業外学修時間の増加に繋げる。

1. 具体的方法と期待される成果

本学が導入するオンライン教材である株式会社アルク「ALC NetAcademy PLUS」を、対面による英語授業に係る事前学修および事後学修に活用し、オンライン学修と対面学修との連動を図る。時間や場所の制約を受けない事前学修と事後学修を可能とすることにより、学生の当該学修に費やす時間の増加が期待できる。以て、本学学生の英語力の修得がより効果的なものとなることが期待できる。

2. アウトカムに関する指標と目標とする数値

アウトカムに関する指標＝本取り組みについての達成指標

(1) 用いる指標

本学が必修科目として開講する英語科目（以下「必修英語科目」という）のうち前項の取組みを取入れて授業を実施した科目（以下「導入英語科目」という）の授業評価アンケート設問『この科目の「授業外学修(予習・復習)」の平均時間は通常1週間あたり何時間程度か。』で、「1時間未満※」と回答した学生の全履修学生に対する割合

※ 回答選択肢

5：4時間以上 4：3-4時間程度 3：2-3時間程度 2：1-2時間程度 1：1時間未満

(2) 目標とする数値

必修英語科目を対象として、2023年度前期に行った授業評価アンケートで当該設問について「1時間未満」と回答した学生の割合は**36%**であった。この結果を踏まえ、導入英語科目数の増加に応じ、当該設問について「1時間未満」と回答する学生の割合を減少させ、将来的に**10%以下**とすることを目標とする。

2. アウトプットに関する指標と目標とする数値

アウトプットに関する指標＝アウトカムに関する指標を達成するための準備指標

(1) 用いる指標

導入英語科目の科目数

(2) 目標とする数値

2023年度前期の段階で、本学の必修英語科目50科目に対し導入英語科目は**6科目**であった。この結果を踏まえ、**必修英語科目50科目を導入英語科目とすることを目標とする**。なお、2026年度の段階で導入英語科目は**22科目**となっている。